

いただいたご意見・ご質問への回答

	意見	市コメント(所管課からのコメント含む)
①	市美術館の入館者数の数え方を工夫し、広報に活かすべき	既に企画展と所蔵作品展の入場者数を別々に数え、合算した数を入館者数として外部に発表している。それ以外の貸館事業の入場者数等のカウントについても、今後検討していきたい。
②	「ちば大道芸の日(旧:大道芸フェスティバル in ちば)」のように、予算減により休止にならぬような体制づくりが大切(参考:ちばYOSAKOI)	<p>ちばYOSAKOIや大道芸フェスティバル in ちばのように、地域活性化を目的として始めた事業は、およそ、5年を目途に地元へ根付かせ、NPOや商店街等が主体となって開催していくことを目指している。もともと協賛金が運営予算の殆どを占めているが、市が負担金を廃止すると、経済状況が厳しい昨今、継続していくことが困難となる。</p> <p>毎年3月第4日曜日に大々的に開催されていた大道芸フェスティバル in ちばは、平成22年度、市からの負担金が廃止となったため、イベントは一旦中止となったが、今年3月第4日曜日に実施できるよう、NPOと中央地区商店街協議会が奮闘中。なお、3月以外、毎月開催されるちば大道芸の日は、負担金が廃止されてもNPO等が主体となって継続実施済み。</p> <p>ちばYOSAKOIについては、平成21年度は休止であったが、学生とNPOで実行委員会を立ち上げ、企業の協賛金を募り、今年、11月28日(日)に、「ホカホカよさこい」と銘打って実施した。県内外から36チームが参加し、中央公園、京成千葉駅前、センシティブガーデンの3会場とも盛り上がりを見せた。</p> <p>地元から継続したいという声が上がるということは、当初の目的どおり、地域に根付いたと評価できる。</p>
③	アーティストバンク登録者に発表の機会を与えてほしい	市文化振興財団では、アーティストバンク登録システムの充実を図るとともに、アーティストバンク登録者を活用した事業を検討している。来年度以降、企画・実施を予定している。市としても、アーティストバンクの広報・活用を推進していく。

	意見	市コメント(所管課からのコメント含む)
④	市民が主体となって地域情報に関するホームページを立ち上げる場合、市からの支援は得られるか	<p>市ホームページを市民にとって使いやすいサイトにするため、所管課である広報課が、ホームページの制作運用に経験のある民間ボランティアを募り、「ホームページリニューアル提案コンテスト」を実施した。平成22年12月から23年2月までの期間、構想から技術的な仕様の作成までを平成23年度のリニューアルに向けて協働してもらう。</p> <p>市民が主体となって立ち上げる際の市の支援としては、ホームページにリンクを貼ることは可能。必要とする情報の提供について、文化振興課が窓口となって所管課等に交渉していくことはできる。</p>
⑤	文化基金について、紹介を効果的にすべき(仕組み、使い道)。また、特典を付けるなどして広報に活かすべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化基金への協力を呼びかけるチラシを作成し、公共施設、文化施設等に配置する準備をすすめている。 ・市所管施設で開催されるイベント等で、場内アナウンスをし、文化に興味をもっている方々へ直接協力を呼びかける。 ・一定額以上の寄付者に、特典を付ける方向で検討している。
⑥	情報格差を作らないために、『あでるは』のような紙媒体も、もう少し残してほしい	『あでるは』は市文化振興財団の自主事業として継続している。4月当初はA3、2つ折りだったが、11月からしあがりA4 3つ巻折りに拡充し、内容の充実を図るとともに、イベント情報等の掲載及び商業広告による収入を確保し、さらに充実を図れるよう努力している。
⑦	振興会議委員に芸術家を加えてほしい	若手芸術家等を加えた方がいいというご意見もいただいており、平成23年度から委員を追加する方向で検討していきたい。(議題3として事務局説明)